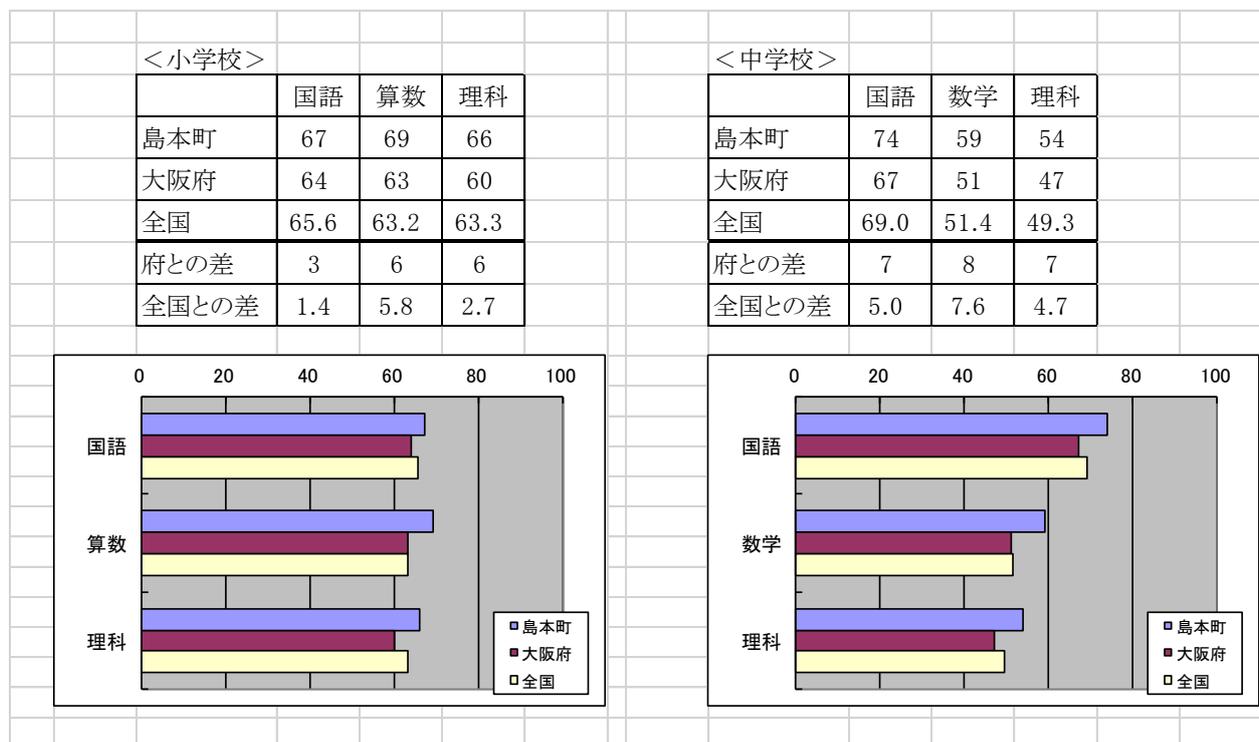


令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

本年4月19日、全国の小学6年生及び中学3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が実施され（悉皆調査は令和3年度に続き12回目）、9月に文部科学省より都道府県別の調査結果が発表されました。その概要についてお知らせします。

1 本町の結果概要について

平均正答率一覧（単位は100%中の正答率の値）



学力に係る調査は、小学校は国語、算数、理科、中学校は国語、数学、理科の3教科について実施されました。

小学校において、全国平均に対して国語では1.4ポイント、算数では5.8ポイント、理科では2.7ポイント上回る結果となりました。

中学校においても、全国平均に対して国語では5.0ポイント、数学では7.6ポイント、理科では4.7ポイント上回る結果となりました。

無解答率については、中学校では、すべての教科区分で全国平均と比較して良い結果となりました。一方、小学校では、全国平均に対して国語が同数値、算数が下回り、理科では上回る結果となりました。（無解答率については、値が低いほど良い傾向となります。）

2 質問紙調査結果について

※数値は、町全体の肯定的な回答の割合（%）と、全国との差【ポイント】

(1) 話し合い活動について

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

<小学校：児童質問紙17番> 島本町：75.2% 【+1.7】

<中学校：生徒質問紙17番> 島本町：83.2% 【+6.3】

(2) 自学自習について

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか。」

<小学校：児童質問紙20番> 島本町：65.8% 【-5.3】

<中学校：生徒質問紙20番> 島本町：61.9% 【+3.4】

新学習指導要領（小学校は令和2年度、中学校は令和3年度全面実施）では、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成が掲げられ、その育成のために、各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進してきました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教育活動の制限がある中で、活動目的を明確にし、課題に正対した取組を推進してきました。今後も、一人ひとりの児童・生徒の違いを認め合えるような教育活動の充実を図っていきます。

3 主体的に学ぶ力の育成に向けた取組について

- (1) すべての児童・生徒が安心して学び合い、高め合うための集団づくりを進めます。
- (2) 他者意識を伴った表現力の育成を図ります。
- (3) 「複数の資料を比較して読む」、「文章を批判的に読み、信憑性を評価する」、「読んだことについて、自分の考えを記述する」ことに課題を焦点化した取組を推進していきます。
- (4) 個別最適化の学びと協働的な学びを実現するため、ICT機器を「学びのツール」として活用します。
- (5) 学習意欲を重視し、自ら課題を見つけ出し、総合的に学びを深めていける学びの場づくりを設定していきます。

本調査結果や過去のデータを含め、総合的に分析を行い、それぞれの学校が組織的に「学力向上」策を検討・実施することで、児童・生徒一人ひとりの「確かな学力」を育成していきます。

なお、この調査は、対象が限られた学年（小学6年生、中学3年生）のみの実施であり、加えて、国語、算数・数学、理科という学力全体の一部を調べたものです。したがって、公表したデータが本町の児童・生徒の学力全体を表すものではありません。

参考資料（ホームページリンク先）

- 国立教育政策研究所：<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
- 大阪府教育委員会：<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/zennkoku/index.html>